

須田先生との思い出

中野 誠(一橋大学 教授)

Makoto Nakano, Hitotsubashi University

出会いからシドニーまで

須田先生に初めてお会いしたのは、1994年1月だったように記憶しています。中村忠先生の最終講義の時でした。私が、まだ大学院博士課程に在籍していた頃です。国立の居酒屋でご挨拶させていただいたことを、今でも鮮明に覚えています。その後、私が大学に職を得てから数年。1998年の秋、紅葉がとても綺麗な季節に、関西大学のコンファレンスで報告する機会を与えていただきました。薄井彰先生のご報告の後に、緊張しながら、年金会計の実証研究について報告をしました。いくつか、難しい質問をいただき、適切に答えることができませんでした。コンファレンス後の懇親会で、少し落ち込んでいた私に、「中野さん、良い報告でしたよ。良かった。うん。」と声をかけてくださいました。そのお言葉で、横浜まで帰る元気が湧きました。

2005年には、日本ファイナンス学会の特別セッション「会計情報と証券市場」にお誘いいただきました。ある日、私の携帯電話に、「ちょっと、野暮用がありましてね」という、いたずらっぽいけれど、真面目なメッセージが残っていました。このときは、横浜国立大学での開催で、竹原均先生の前座での報告でした。終了後、「うまく行った、良かった、良かった、ありがとう」と、ほっとされていました。聴衆が多かったこともありますが、今思い返すと、先生は私の報告内容に少なからず不安をお持ちだったのかもしれない。

須田先生には、いくつもの機会を与えていただきました。駆け出しの研究者にとって、貴重な経験を積むことができました。このことは、どれほど感謝しても感謝しきれるものではありません。

2006年には、シドニー開催のAsian Academic Accounting Associationでご一緒しました。夕食時、ベイスайдでワインを楽しんでから、満天の星空の下、みんなで歩いてホテルまで帰りました。その時、上機嫌の須田先生が空を見上げながら、なんともキザな言葉をささやいたことを覚えているのは、私くらいでしょうか。その後、ホテルに帰るまで、なぜだか心から楽しい時間だったことは忘れられない思い出です。

しかし翌日の夜は、ホテルのラウンジで、いま思い返すと大変失礼なお話しをしてしまいました。翌朝、一番に謝ると、「私も酔っていて、よく覚えていないんだよね。なんだか、勢いのある話だったけど…」と言って、笑い飛ばしてくださいました。須田先生のお優しいお人柄が身に染みしました。

幻の共同研究と利益平準化

一度だけ、須田先生と共同研究ができそうな機会がありました。「R & D支出をめぐる株主-債権者間コンフリクト」というテーマまで決まりました。日本橋コレド(早稲田ファイナンス)と神田一橋(一橋ICS)は、歩いて通える距離でした。しかし残念ながら、私が怠惰だったために、

あまり進展はしませんでした。せっかくの機会でしたのに、今となっては、悔やまれます。「中野さん、そんな常識的な考えですよ。研究には、もっと追加的貢献がないといけません。」というコメントが耳に残っています。

須田先生との議論の中で、日本企業の経営者は、自己利益のためだけに裁量的会計行動を取る訳ではない、というアイデアが浮かびました。経営者が自己の効用最大化を図るというエージェンシー理論的な立場ではなく、投資家—経営者間の情報伝達機能的なとらえ方もあるのではないか。そのようなアイデアです。これは、最近の私の利益平準化研究へとつながっています。日本の多くの経営者は私的便益のために報告利益管理をしているわけではないという問題提起です。須田先生との対話からは、いくつものアイデアが生まれてきました。私の博士論文についても、「楽しんで研究している姿が良い」と褒めてくださいました。中身ではなく研究姿勢を褒められたのは、複雑な気分でしたが…。

優しい笑顔

須田先生と言えば、誰もが思い出すのが、あの優しい笑顔です。特に忘れられないのは、先生が奥様にプロポーズされた時のお話です。研究会後の懇親会。ある研究仲間の結婚話の際に、須田先生が突然、ご自身のプロポーズの時のお話を始められました。結構、長時間にわたり、楽しそうにお話をしてくださいました。「夜景が綺麗だったんだ。いやあ、懐かしいなー。あれ？ みんな聞いている？」という、楽しいひと時の優しい笑顔を今でも忘れることができません。私の心も暖かくなりました。

それにしても、あのお優しい笑顔にもう二度と会えないと思うと、悲しみが込み上げてきます。そしていま、須田先生から私には、とても大きな宿題を与えられているような気がしています。天国から見守って下さる須田先生に、きちんと宿題を提出できるよう、日々精進したいと考えています。